

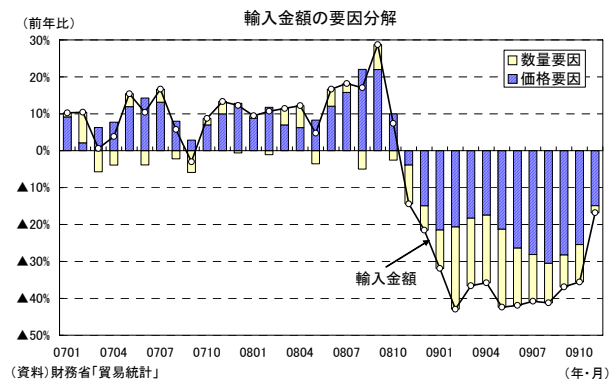
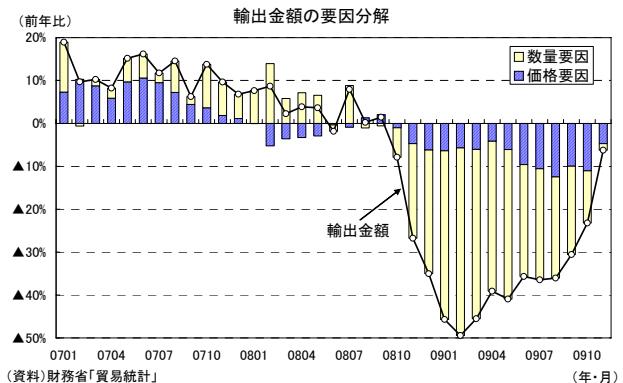
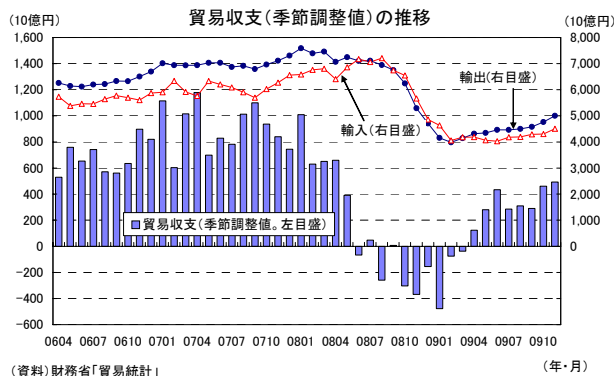
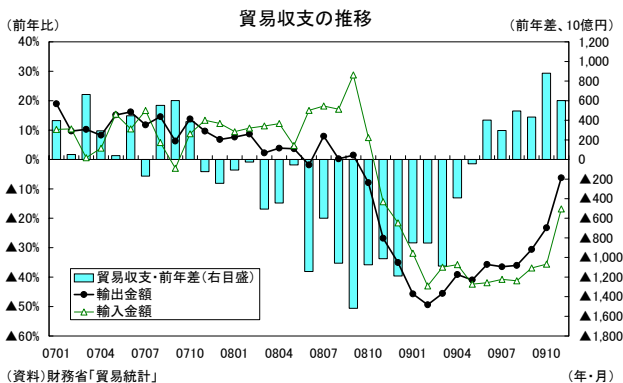
経済・金融 フラッシュ

貿易統計 09年11月 ～アジア向け輸出が1年2ヵ月ぶりに増加

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出入ともに減少幅が大きく縮小

財務省が12月21日に公表した貿易統計によると、11月の貿易収支は3,739億円の黒字となり、ほぼ事前の市場予想（ロイター事前予想：3,445億円、当社予想は3,832億円）通りの結果となった。輸出入ともに減少幅が大きく縮小したが、引き続き輸入の減少幅（10月：前年比▲35.6%→11月：同▲16.8%）が輸出の減少幅（10月：前年比▲23.2%→11月：同▲6.2%）を大きく上回り、貿易収支は6ヵ月連続で前年を上回った。季節調整済の貿易収支は4,924億円と8ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前月の4,608億円から若干拡大した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲1.5%（10月：同▲13.0%）、輸出価格が前年比▲4.8%（10月：同▲11.8%）となり、いずれもマイナス幅が大きく縮小した。輸出

数量は、昨年秋のリーマン・ショック以降の急速な落ち込みの影響で前年の水準が大きく下がっていることもあり、12月には前年比でプラスに転じる可能性が高いだろう。

輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲2.1%（10月：同▲11.7%）、輸入価格が前年比▲15.0%（10月：同▲27.0%）であった。

2. アジア向け輸出が前年比プラスに

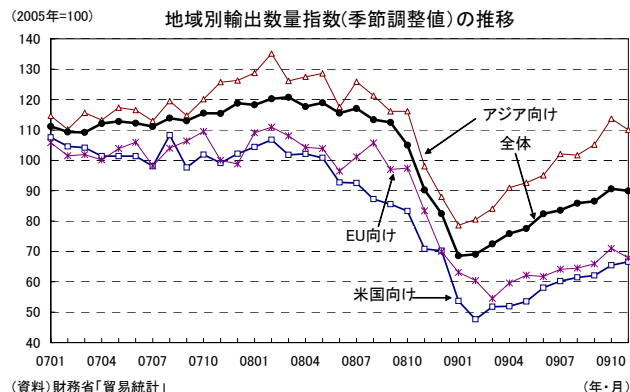
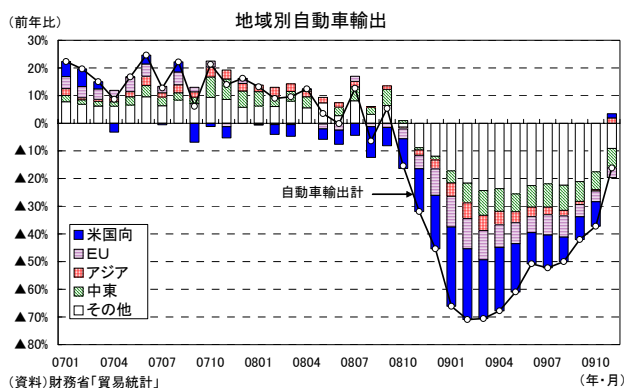
自動車輸出は前年比▲16.2%となり、10月の同▲37.2%から減少幅が大きく縮小した。EU向け（10月：前年比▲34.8%→11月：同▲29.4%）、中東向け（10月：前年比▲42.5%→11月：同▲36.9%）、ロシア向け（10月：前年比▲90.7%→11月：同▲83.9%）は依然大幅な減少が続いているが、米国向け（10月：前年比▲29.4%→11月：同 5.1%）が1年7ヵ月ぶり、アジア向け（10月：前年比▲6.1%→11月：同 20.5%）が1年2ヵ月ぶりに増加に転じた。

11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲6.2%（10月：同▲21.1%）、EU向けが前年比▲18.5%（10月：同▲26.7%）とマイナス幅が縮小し、アジア向けは前年比 11.9%（10月：同▲1.9%）と1年2ヵ月ぶりにプラスに転じた。アジア向け輸出は金額ベース（前年比 4.7%）でも1年2ヵ月ぶりに増加に転じた。

地域別の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前月比 1.7%、EU向けが同▲4.5%、アジア向けが同▲3.3%、全体では同▲0.8%となった。EU向け、アジア向けは前月比で減少したが、いずれも前月の伸びが高かった（EU向け：前月比 7.8%、アジア向け：前月比 8.1%）反動によるところが大きく、輸出の増加基調は継続していると判断される。

なお、地域別の輸出数量指数の水準（季節調整値）を直近のピーク時と比べると、アジア向けが8割強まで回復しているのに対し、米国向け、EU向けは6割強にとどまっている。

輸入数量指数（季節調整値）は7-9月期に前期比 5.5%と5四半期ぶりに増加した後、10月が前月比▲2.0%、11月が同 1.6%となった。10、11月の平均は7-9月期を 1.7%上回っており、国内生産の回復を背景とした輸入の増加基調は維持されている。ただし、輸出の増加ペースがそれを上回っているため（10、11月の平均は7-9月期を 5.8%上回っている）、10-12月期も引き続き外需が成長率の押し上げ要因となることが見込まれる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。